

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「力いっぱい生きる」(道徳)

射水市立放生津小学校 4 学年児童
平成 22 年 11 月 11 日実施

【いのちの先生】

どうぞえ
塘添 誠次先生

・ 県視聴覚障害者協会理事

【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の話
 - (1) あたり前であることのありがたさ
 - (2) 自分の障害とこれまでの私
 - (3) 前向きにチャレンジする現在の私
- 3 質疑応答
- 4 感想記入

事前に児童にブラインドウォークを体験させ、いのちの授業を実施した。初めてサウンドテーブルテニスを経験した児童は、球を力強く打ち返す塘添さんの姿に驚いていた。

また、塘添さんが、点字訳の仕事に打ち込む様子、登山に挑戦する様子、バスや電車を乗り継ぎ可能な限り一人で外出する様子など、お話を聞いてその前向きな姿勢に感銘を受けていた。

質疑応答で、一人でできないときは周囲の力を借りればよいこと、その時には、恥ずかしがらずに自分から声を出すことが大切であると話された。



児童の感想

- ・ いのちの大切さと、くじけずがんばることを学びました。いのちの先生は、目が見えなくてもがんばっているのですごくいいと思いました。いのちは一つしかないので、大切にしようと思いました。
- ・ 塘添さんから、いのちの大切さや、今、私たちが当たり前に行っていることは当たり前ではないことを教えていただきました。
- ・ 目が見えなくても山に登るといふ勇気の大切さを感じました。どんなにつらくて悲しくても、負けずがんばります。そして、両親からもらったいのちをいつまでも大切にしていこうと思います。

お母さんへ

今日いのちの先生のお話を聞いて、お母さんからもらったいのちの大切さを学びました。

それから、塘添先生がどうやって卓球をするのかを教えてくださいました。いっしょに卓球をやってみてとてもよい勉強になりました。

卓球をしながら、いのちを大切にしようと思いました。

イラスト「心のノート」より



〇〇へ

あなたがお腹の中で動いていたことを今でもよく覚えています。生まれてきたときから手術を受けないといけない状態で、3回手術をしました。小さい体でよくがんばったと思います。これからもいろいろなことがあるでしょう。たった一つの自分のいのちを大切にしましょうね。お母さんはあなたが生まれてきてくれたことを心からうれしく思っています。

イラスト「心のノート」より



お母さんへ

今日、目の不自由な塘添さんという方のお話を聞きました。塘添さんは、40歳のころから目が不自由になってしまったのだそうです。それでも、サウンドテーブルテニスという卓球をしておられました。目が不自由なのに卓球をやっている塘添さんはすばらしかったです。

イラスト「心のノート」より



〇〇へ

目が不自由でも、すばらしい生き方をしておられる塘添さんから貴重なお話を聞くことができよかったですね。

生きることやいのちのことを話したり、聞いたりする機会は今まであまりなかったけれども、これからは家族の中でも話題にしていきたいね。

イラスト「心のノート」より

